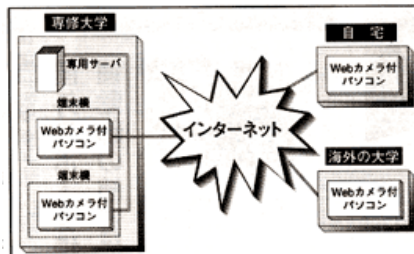
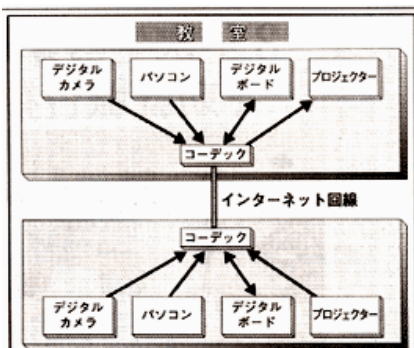


## ネットワーク活用、教育活動を技術支援

情報科学研究所サイバーキャンパス推進室長 松永賢次 ネットワーク情報学部助教授



ADSLに代表されるようなブロードバンドインターネット、そして携帯電話に代表されるモバイルネットワークが普及し、大学という社会でネットワークを活用してさまざまな活動をより良くできないのか、ということも期待することである。



こういったことをやってみたい、という教職員・学生のアイデアがあっても、それを実際に行うには専門家のアドバイスなしには難しいのが現実である。情報科学研究所サイバーキャンパス推進室は、ネットワークを用いた教育支援活動に経験がある、ネットワーク情報学部、経営学部の教員がメンバーとなりさまざまな技術支援を行っている。

文学部が取り組む 国際間ネットワーク共同授業

今年度、最も進行している事例として、文学部が取り組んでいる「国際間のネットワーク共同授業」を紹介しよう。この取り組みは、日本にいながらインターネットを利用して、海外の先生の授業を受講したり、海外の学生と合同ゼミナールを実施することを目標にしている。昨年4月より、発案者である板坂則子文学部教授とどのような携帯の授業を実施したいのか打ち合わせをし、実際の装置の選定作業まで行った。文部科学省のサイバーキャンパス整備事業の補助金を得て昨年12月に導入されたシステムは、2種類の形態の授業を実施するための二つのサブシステムから構成されている。

一つは、教室と教室とをインターネットで相互に結んで動画像をやり取りする、ネットワーク会議システムである。コーデックと呼ばれる専用のデータ圧縮装置を利用することで精細な動画像を送ることができるようになっている。1月9日には、生田校舎内の2つの教室を利用し、先生と学生が別々の教室に入り、このシステムで実際にネットワーク中継しながら授業を行った。生田校舎内での実験授業がうまくいったので、今後は、神田・生田校舎間の中継、そして提携校である韓国・檀国大学との中継と、徐々に長距離の中継授業の実施を企画している。

韓国・檀国大学と実用化 リアルタイムの授業が可能に

もう一つのシステムは、インターネットに接続されたパソコンの前にいる複数の人間が相互に話し合いをすることができるものである。専修大学内のサーバーにアクセスするだけで、特に専用の装置を必要としない簡易な会議システムとなっている。檀国大学との間で実際に使用しはじめ、どのような形態の利用法が良いのか検討を進めているところである。

これらの装置でのリアルタイムな授業形式に加えて、従来から整備してきたオンデマンド型のビデオ教材を使って授業前に予習をすること、そしてレポート提出システムを利用して授業後にやり取りをすること、などを組み合わせることにより、より良い教育システムをネットワーク上に構築することができるだろう。

ネットワーク情報学部 学生が支援実行部隊に

これらの授業を実施するためには、支援のための人手が必要である。現在、ネットワーク情報学部の学生を教育し、支援活動の実行部隊として協力してもらっている。

専修大学では、「eキャンパス推進委員会」を設置し、全学をあげてキャンパスの情報化に取り組む予定であり、われわれの経験が、全学的な取り組みに活かされるようにしていきたいと考えている。

【ニュース専修2月号4面】